

はあもに

Harmony

To Women
For Women
and By Women

第2号
2020年9月発行

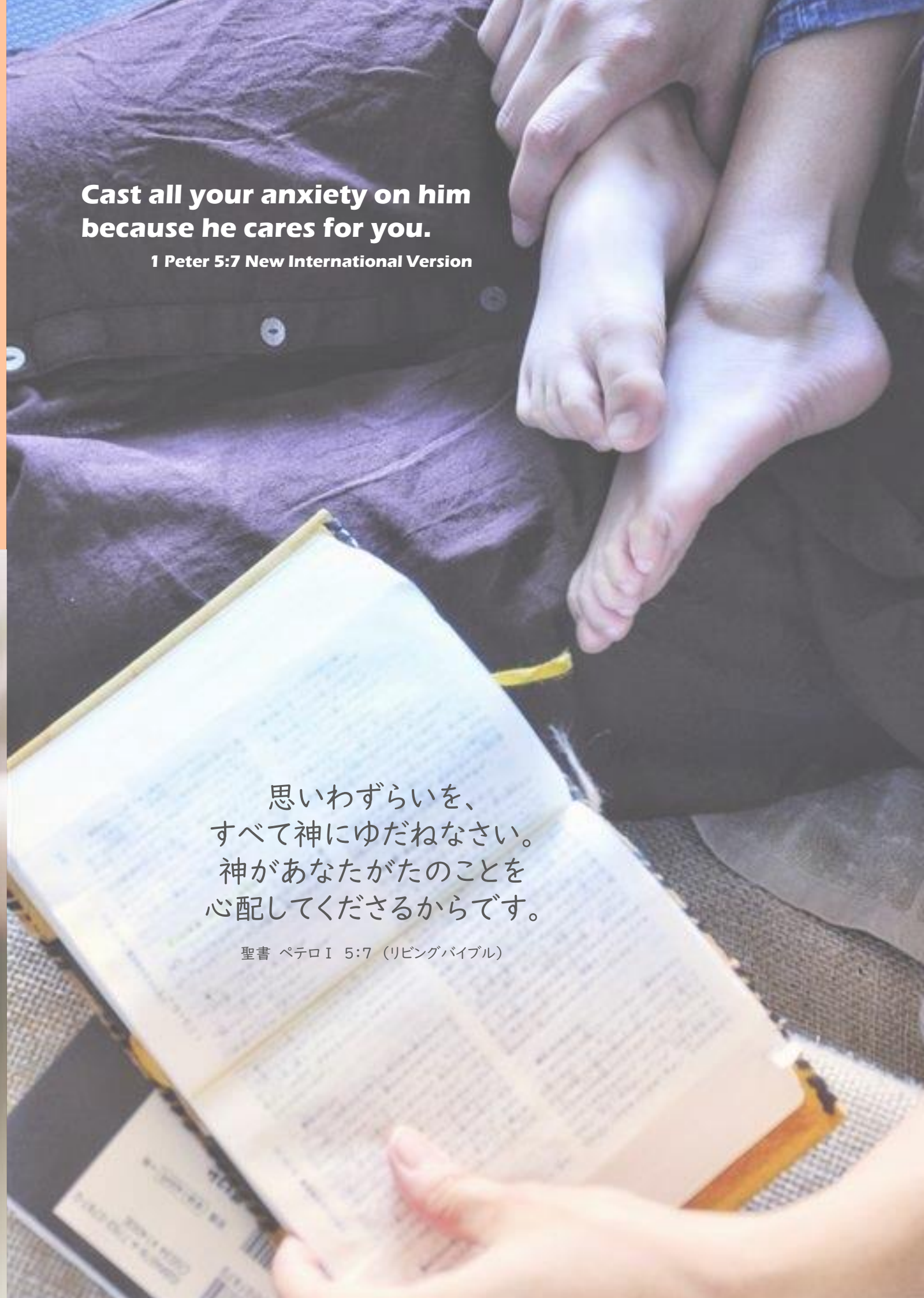


特集
今、
わたしにとっての
精一杯



Cast all your anxiety on him
because he cares for you.

1 Peter 5:7 New International Version



思いわずらいを、
すべて神にゆだねなさい。
神があなたがたのことを
心配してくださるからです。

聖書 ペテロ I 5:7 (リビングバイブル)

はあもに

Harmony

第2号 もくじ

4 特集
今、わたしにとっての 精一杯

インタビュー
看護師 後藤陽子さん

8 ことばをとどける
バイブルメッセージ
西村和江

10 はあもに広場
お元気ですか？
わたしは元気です。

12 すてきなひとたち
第二回 救世軍佐野小隊
つながっていたい

14 祈りの部屋
羊飼いと共に歩む
中島美和

16 エッセイ
シリーズ「すぐそばにある物語」

17 子育てのヒント
噛む力を育てよう
子どもが大好きおやつレシピ
救世軍呉保育所

19 海外支援 一円献金
『はあもに』定期購読のご案内

「ウィズコロナ」
「新しい生活様式」

わたしたちは今、全く新しい時代の扉を
開けたところにいるのかもしれない

テクノロジーを駆使することによって
たくさんの方が変化していますが
人を大切に思う気持ちは今も昔も変わりません

へあの人に会いたい
他愛もない話をして、笑って、泣き言を言って…
人と人がつながる時間
そこには
わたしたちの求めているあたたかさがあるから

自由に人と会うことのできない今
『はあもに』を通して
あなたの心に
人と人がつながるあたたかさが
届きますように

はあもに

Harmony



後藤陽子
Yoko Goto

救世軍ブース記念病院
緩和ケア（ホスピス）病棟 科長

インタビュー

看護師 後藤陽子さん

「自分が特別なことをしているという気持ちはありません。今できることは何か、今置かれている状況で何をすることが必要なのかを考えています。」

がん末期の患者様を受け入れている緩和ケア（ホスピス）病棟で働く後藤さんは、小学生の長男、長女を育てながら、今日も医療の現場に立ち続けています。看護師としての「精一杯」をお話しくいただきました。

「もっと早く見つけれられたかもしれないのに、ごめんなさいね」と担当医師に言われました。わたしの乳がんが見つかった時です。まさか先生に「ごめんなさいね」と言われるなんて。

その頃、とても仕事が忙しかったのですが、ふと「検診に行かない」と思いました。時期が遅れた定期検診で13センチの腫瘍が見つかり、まさに「がん」という感じてした。

13センチの腫瘍

「子を失う親のような気持ちで、患者に接することできない、そのような共感性のない人がいるとしたら、今すぐこの場から去りなさい。」（フローレンス・ナイチンゲール）

この言葉が好きなんです。看護学校時代に出合った言葉で、事あるごとに思い出しています。患者様とは対等でですけど、自分の親を世話するようにに接したいと願っています。自分が完璧にできるわけではないですが、これが自分の目指す看護師の姿です。



「陽子全快！」の願いを込めて

先生に謝られて、医師と患者とか、医師と看護師とかに関係なく、良い人に出会えたと思いました。一昨年の七夕の前日が手術でしたが、同僚から届いた応援のメッセージにどれだけ励まされたことか。そのときの写真（右）は宝物です。

病棟にボランティアで来てくれていた方も乳がんで治療していました。彼女は自分自身が辛い状況の中で、わたしを励ましてくれました。「後藤さん大丈夫よ。お子さんはまだまだお母さんが必要だから。大丈夫よ、きつとうまくいくから」と。忘れられない言葉です。

特集

今、

わたしにとっての 精一杯

かつて想像もしなかったことが起こり、わたしたちの当たり前だった生活が変わり、どうすればよいのか、不安と恐怖が続いている。

けれども、家族のために、人のために、自分のために、今置かれているところで精一杯生きることは、どんな状況にあっても、変わらないのかもしれない。

社会の最前線で働くこと、家で家族の世話をすること、外出や人と会うことを我慢すること、それぞれにとっての精一杯がある。



2020 カンボジア プロジェクト

Cambodia

カンボジアには韓国から救世軍の伝道チームが派遣され、現地の活動をサポートしています

***子どもたちへの給食活動**
弱い立場にある子どもたちのため、毎週日曜日に、いろいろな場所で合計85人～360人に食事を提供しています

Indonesia

インドネシアは2018年に発生した地震と津波によって甚大な被害を受け、今でも多くの支援が必要とされています

手から手へ
Hand In Hand

カンボジアは内戦や独立に向けての困難な時代を経て、今も貧困や教育の不足、という課題に向き合っています。必要な教育や医療を受けられない子どもたちへの多くの支援が必要です

*マイクロクレジット・プロジェクト

家族の生活や子どもの学費のために働く女性に、少額の融資を行い、起業や事業継続の支援を行っています

*女性のための 開発セミナー、 ワークショップの開催

将来に向けた良い備えができるように女性の能力開発を助けます



2021 インドネシア プロジェクト

一円献金
わたしにできる海外支援

みんなの小さな助けが集まって
大きな働きになる

Photo by Tom Godec

一円献金とは？

日本の救世軍では、1968年から女性たちが中心となって、一年かけて最小単位の貨幣である1円をコツコツと貯め、海外支援のために献げてきました。毎年、支援を必要としている国の救世軍と相談して具体的なプロジェクトを計画し、「一円献金」を直接送金しています。2019年はフィジーの「ファミリーケアセンター」のために1,007,514円を送金いたしました。2020年はカンボジア、2021年はインドネシアを支援いたします。身近でできる海外支援として、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

* 献金は救世軍の小隊や施設で随時受け付けています。近年、大量の1円を入金する際に手数料がかかるようになりました。お持ちくださる時は、なるべく両替してください。また、下記の救世軍ホームページからも寄付することができます。

<https://www.salvationarmy.or.jp/donation> (『一円献金』とご指定ください)



発行日 2020年9月1日 はあもに第2号 定価 200円(税込・送料別) 年間3回発行
発行所 救世軍本営 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 TEL 03-3237-0881
発行者 ケネス・メイナール 編集責任者 シェリル・メイナール
編集者 西村和江 石川芳子 平本征子 齋藤恵子 関根悦子 田中民(グラフィックデザイナー)
創立者 ウィリアム・ブース 大将 ブライアン・ペドル

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会
©本誌記事・写真の無断転載・使用を禁じます ©2020 The Salvation Army Japan. All Rights Reserved.

救世軍は、キリスト教(プロテスタント)の教会で、伝道活動とともに、様々な問題で苦しみ、助けを求めている人々のために、130以上の国と地域で社会福祉・教育・医療などの支援を行っています。救世軍について詳しくはホームページをご覧ください。 <https://www.salvationarmy.or.jp>

『はあもに』定期購読のご案内 *売上の一部を一円献金として海外支援に用います

次号は2021年1月1日発行！ ぜひ定期購読をお近くの救世軍へお申し込みください。

定期購読料金	1冊200円(税込・送料別) 年間3回 (2021年から 1月、5月、9月)発行 600円 (税込・送料別)
--------	---

お問い合わせ

救世軍本営 女性部はあもに係
TEL: 03-3237-0881(代) FAX: 03-3237-3588
E-mail: jpn.women.harmony@jpn.salvationarmy.org

